

海を越えてひろがる交流の輪



Public Information

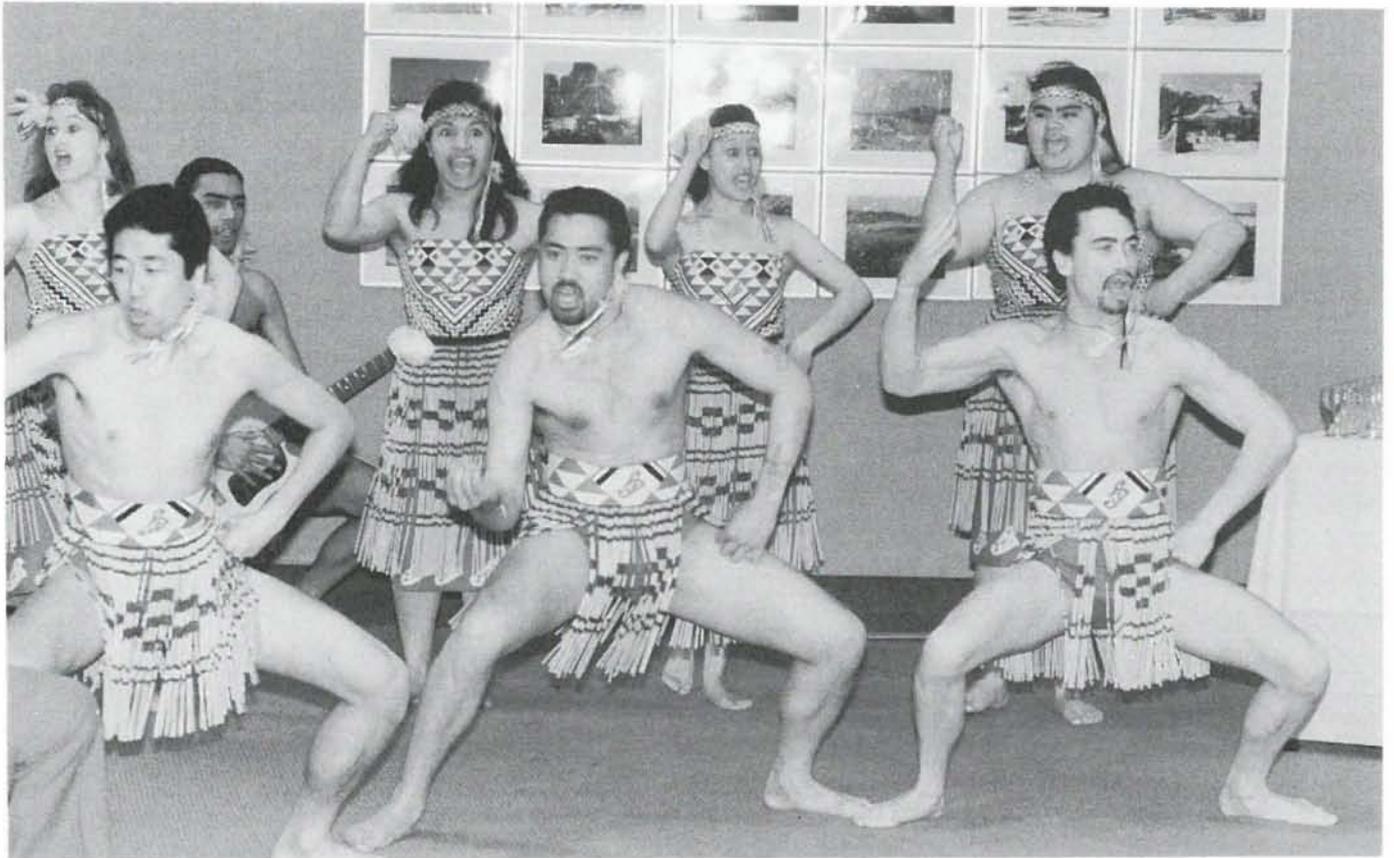
広報 vol.4

1995. 2

KAKOGAWA INTERNATIONAL ASSOCIATION



財団法人 加古川市国際交流協会



勇壮なマオリによる歓迎のセレモニー 賛助会員視察ツアーにて

◆ CONTENTS ◆

(財)加古川市国際交流協会 1994年 国際交流レビュー	2
賛助会ニュージーランド・オーストラリア視察旅行レポート	6
姉妹都市からこんにちは マリンガ市岡田聡子さんのお便り	8
I LOVE KAKOGAWA 在住外国人紹介のページ	9
インフォメーション	10

4月 **ワイタケレ市中学生来加** (4/30~5/14)

姉妹都市ワイタケレ市（NZ）より学生10人引率者4人が加古川市を訪問しました。この訪問は、今年で3回目。今年は2週間という今までにない長期のホームステイを実施し、学生たちは日本の生活をたっぷりと楽しみました。

写真は加古川消防署を訪ねた時の様子。ワイタケレには高層の建物がなく、このようなはしご車も見たことがないということで、学生たちは大はしゃぎ。こんなところにも、お国柄が出るものなのです。

2週間お世話くださったホストファミリーのみなさん、ありがとうございました。

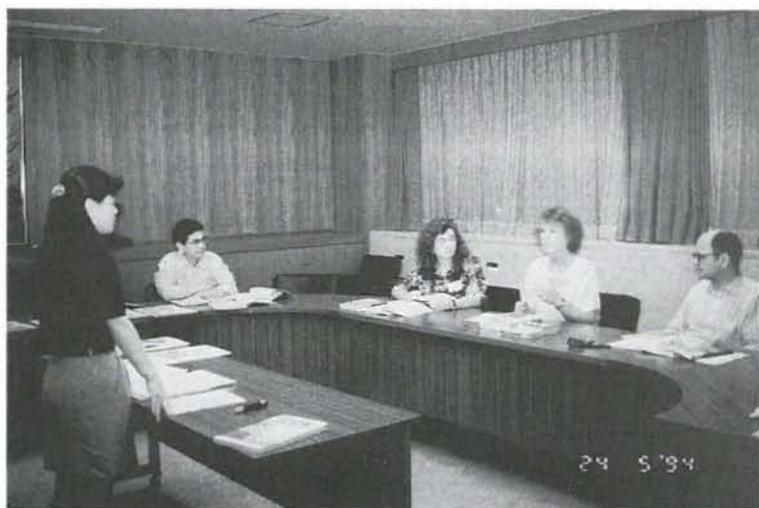


5月 **在住外国人日本語講座スタート**

(5/24~翌3/28)

日本語を勉強したい外国人のために、日本語講座を始めました。教えるのは昨年度の日本語教育ボランティア養成講座の修了生。現在18人が毎週火曜日の夜7時から9時まで、青少年婦人センターで勉強しています。生徒は、国籍も職業も様々。中には姫路や小野、三木などから通ってくる方もいます。授業では、先生も頭をひねるような質問もとびだし、わきあいあいと楽しい雰囲気。

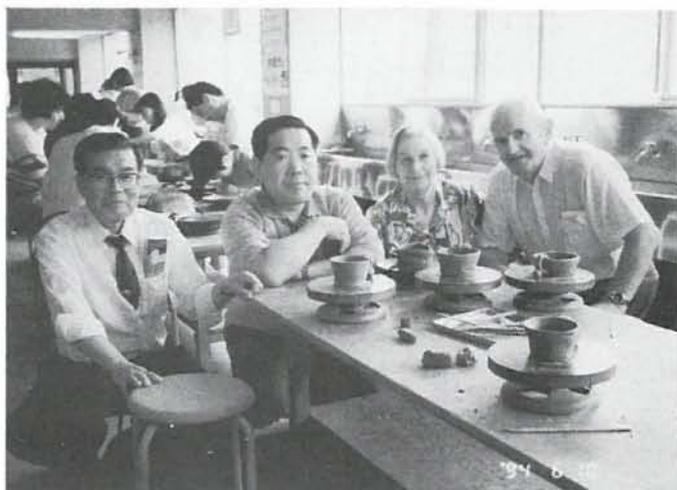
興味のある方は、ぜひ見学に来てください。



6月 **ワイタケレ・ニューリンロータリークラブ来加**

(6/8)

ワイタケレ市・ニューリン地区のロータリークラブのメンバー14人が加古川市を訪問。一日だけの滞在でしたが、加古川のロータリークラブとの交流や鶴林寺、総合文化センターの見学など、初夏の一日を楽しみました。



マリंगा市加古川市姉妹都市提携20周年記念石碑除幕式

(6/15)



1973年に姉妹都市提携を結んだマリंगा市（ブラジル）と加古川市は、1993年に20周年を迎えました。それを記念してマリंगा市から贈られた石碑が、この日披露されました。除幕式には、マリंगा市からも副市長、副議長をはじめ5人が出席し、両市の歩んできた20年の交流をふりかえるとともに、今後の友情を固く誓いあいました。

「交流」の2文字が刻まれた記念石碑は市役所南の小柳公園に設置されていますので、一度見にいってみてはいかがでしょうか。

ワイタケレ市親善訪問団来加

(6/23～6/30)

ワイタケレ市より、市長をはじめとする19人が加古川市を訪問。メンバーの職業は、市議会議員、地域活動家、市職員、農業、会社員、主婦など様々。NZの先住民マオリのグループからも代表の方がこられました。一行は一週間の滞在中に、加古川市内のほか広島、姫路、立杭なども訪ねました。ハーヴェイ市長は以前から日本びいきで知られていましたが、メンバーのほとんどはこれが初めての日本訪問。何をしても何を見ても驚きと感動の連続だったようです。全員大の親日家になって、「また必ず来ます」と固い決意を胸に、猛暑の日本を後に帰国しました。

この訪問にあわせて、市役所市民ホールにてワイタケレ市の紹介パネル展を開催しました。ご覧になった方もいるのでは？



7月 サンパウロジュニアサッカーチーム来加

(7/24)

サッカーの本場ブラジルから、サッカーチームが来加。氷丘中学校サッカー部や東播選抜チームと交流試合を行いました。一行は、大阪市とサンパウロ市の姉妹都市提携25周年を記念して来日。大阪での対戦の後、加古川に訪れました。

このチームは、サンパウロ州内に200以上あるチームから選抜された12歳から14歳までの13人の少年たち。結果は、サンパウロチームの一勝一引き分け。カンカン照りの中、選手たちは激しいプレイを展開しました。



8月 第4回ワイタケレ市へ中学生海外派遣(8/15~8/26) 第3回マリンガ市へ青年海外派遣(8/16~8/26)

毎年恒例の青少年海外派遣。今年も13人の中学生がワイタケレ市へ、8人の青年がマリンガ市へ、それぞれ派遣されました。現地ではホームステイや学校訪問などいろいろなプログラムが用意され、2週間足らずの短い滞在とはいえ、他ではできないローカル色あふれる貴重な体験を楽しみました。

この海外派遣は、毎年6月に派遣生の募集を行なっています。中学生は学校を通して、青年は市民センターや公民館などで募集要項を配布しています。次回の派遣には、あなたも応募してみたいはいかが？



9月 ふれあい国際料理講座スタート (9/9~11/25)



各国の講師を招いてお国の家庭料理を教わるふれあい国際料理講座が今年も開催されました。

今年教えて下さったのは、ブラジル、中国、タイ、ギリシャ、インド、NZの6ヶ国の出身者。

ほとんどの講師は、人前で料理を教えるのは初めてという方ばかりでしたが、自分のふるさとのことを日本の人々にも知ってもらいたいと、熱心に教えて下さいました。

料理もさることながら、お国での人々の生活や日本で暮らしてみたいの感想など楽しい会話がはずみました。

10月 賛助会員ニュージーランドツアー (10/1~10/8)

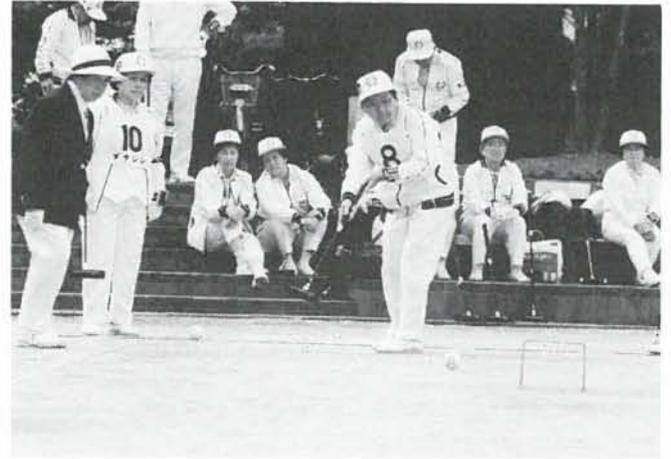
賛助会員を対象に、ニュージーランド・オーストラリアへの視察旅行が催されました。参加したのは31人の賛助会員の皆さん。一行は9月4日に開港したばかりの関西国際空港から出発し、クライストチャーチ、オークランド、シドニーでの観光を楽しみました。またワイタケレ市役所を訪問して、マオリのダンスや歌で大歓迎を受けました。



11月 マリンガゲートボールチーム来加

(11/5)

マリンガ市から29名のゲートボールチームが加古川を訪問しました。一行は鹿児島市で行なわれた第6回世界ゲートボール選手権大会に出場。その後加古川入りし、小柳公園で市内の2チーム（加古川市ゲートボール連合選抜スマイルチームと南粟津チーム）と交流試合を行ないました。試合当日はさわやかな秋晴れに恵まれ、試合の後は、姉妹都市提携20周年記念石碑をバックに記念撮影をするなど、なごやかに楽しいひとときをすごしました。



12月 障害者海外派遣 派遣生決定！



KIAでは、毎年障害を持つ中学三年生を海外へ派遣しています。今年は2月12日から19日まで13人の中学生をワイタケレ市に派遣することになり、すでに派遣生も決定しました。派遣生は、レストランでの食事訓練、ホテルでの宿泊訓練など数回の事前研修を済ませ、あとは出発を待つのみ。昨年の派遣先であった西オーストラリア州パースと同様に、ニュージーランドも障害をもつ人々が暮らしやすいことで知られており、ハーヴェイ市長を始め学校関係者、市関係者も受入れ準備を万端に整えて、加古川からのお客様を楽しみに待っているようです。

平成6年度 第2回理事会開催 (12/6)

理事会は各方面から選ばれた人からなり、協会の運営を円滑にすすめるためにかかせない組織です。このたびの平成6年度第2回理事会では、次の方々が新役員に決定しました。

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	瀧川 松 男	理事	山田 収 二郎	理事	龍見 芳 子
副理事長	舟坂 勝	〃	牧野 耕 三	〃	高松 清太夫
〃	木戸 喜久男	〃	長谷川 末 吉	〃	松本 毅
常務理事	岸本 揚 一	〃	前島 博	〃	高谷 敏
理事	大庫 典 雄	〃	清田 康 之	監事	近藤 守 男
〃	青木 行 夫	〃	川西 正 廣	〃	藤原 義 昭
〃	前川 正 美	〃	岸本 正 子		

賛助会員ニュージーランド・オーストラリア視察旅行レポート

加古川市国際交流協会賛助会員を対象とした初めての海外視察旅行が実施されました。訪問したのは、南半球のニュージーランドとオーストラリア。ニュージーランドでは、姉妹都市のワイタケレ市を訪ね、市民どうし心あたたまるふれあいの場面が繰り広げられました。また、姉妹都市との交流はもちろん、参加者どうしの親睦も深まり、短い日程ながら充実した楽しい旅行となりました。

ニュージーランド・オーストラリア紀行

賛助会員 小屋 幹 夫

昨年10月1日から8日間、国際交流協会賛助会員31名がニュージーランド・オーストラリアで視察親善の旅を楽しんだ。ほとんどの参加者が未知の旅だけに期待と緊張のまま、関西空港から一路ニュージーランド南島クライストチャーチに向った。大自然の国は期待以上に迎えてくれた。

まず、クライストチャーチの美しい町並みに驚嘆。花と緑と水にたたずむ街は、うらやましい限り。市内観光を楽しんだ後、第一夜はシックな石造りのレストランでムード満点の会食。

第3日目はオブショナルツアーのマウントクック観光で氷河を遊覧。

第4日目は北島のオークランドへ飛ぶ。加古川市の姉妹都市であるワイタケレ市に全員で親善訪問。歓迎のセレモニーは圧巻で、先住民族マオリの男女が民俗衣裳で古式により歌と踊りで迎えてくれる。市長をはじめ大勢の関係者の歓迎を受け、浦井団長があいさつを述べ、木下市長からの記念品を贈呈。簡素だが和やかなパーティーを楽しみ、なごり惜しくも見送りを受け、市庁舎を後にする。

第5日目は自由行動。ワイトモ鍵乳洞ツアーなどを楽しむ。

第6日目。最後の訪問地オーストラリア・シドニーに飛ぶ。市内観光では、有名なオペラハウスを見学し、興味深いエピソードなどガイドから説明を受けた。

第7日目。ワイルドパークでコアラを抱いて記念写真を撮ったり、ブルーマウンテンで溪谷美を堪能する。その後、市街地に帰っておみやげを買ったり、世界3大美港の夜景を遊覧船から眺めたりして、最後の夜を楽しむ。

事故もなく、数々の思い出をそれぞれが胸に帰国した。

素晴らしい旅を本当にありがとう。

ニュージーランド

(New Zealand)

ニュージーランドは南半球に位置し、北島と南島、それに周辺の島々からなります。面積は日本の本州と九州を合せたくらい。

日本と同じように火山国で、特に北島にはたくさんの火山があります。南島にはサザンアルプスが走り、マウントクックをはじめ、3000mを越える高い山々が連なります。

放牧や牧羊を中心に農牧業がさかんで、国全体が緑の牧草につつまれています。

季節が日本とは逆になるため、この旅行ではNZはちょうど春でした。

ワイタケレ市は、オークランドの西約15km。市の西部には、タスマニア海に面した美しいビーチと、緑濃いワイタケレ山地があり、豊かな自然が自慢です。面積は3万9千ヘクタール、人口約13万5千人、国内で6番目に大きい都市です。

主な産業はワイン作り、園芸、果樹栽培など。自然保護に力を入れており、市内には400もの公園や緑地があります。

加古川市とは1992年5月4日に姉妹都市提携を結び、中学生交換事業をはじめ、活発な交流を深めています。

オーストラリア

(Australia)

おだやかな気候と豊かな自然に恵まれた南半球の大陸国家オーストラリアは、1988年に建国200年を迎えた若い国です。

日本の約20倍もの広大な国土には、常夏のトロピカルリゾートから山岳リゾートまで、多彩な自然が広がり、緑豊かな都市と美しい調和を見せます。

今回訪ねたシドニーは、オーストラリアの経済、文化の中心。香港やリオデジャネイロとならぶ世界3大美港のひとつといわれます。

西暦2000年のオリンピック開催をひかえ、活気にあふれる町です。

WELCOME TO
WAITAKERE!



先住民マオリの人々による歓迎のセレモニーでの1シーン

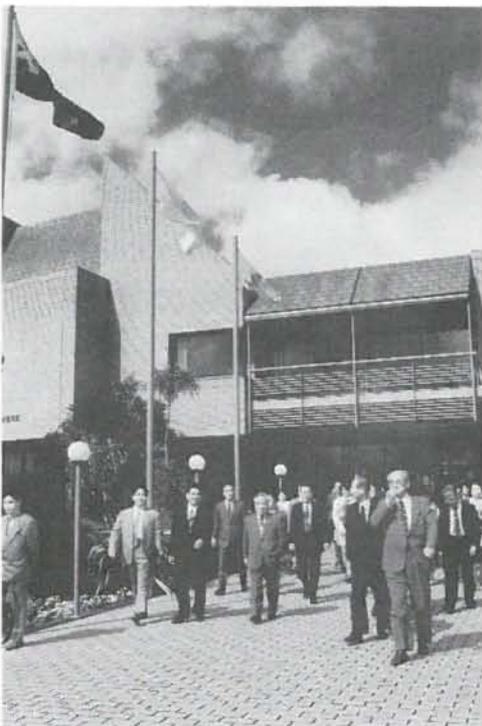


ニュージーランドは赤道をはさんで、日本とほぼ同じ位置にあります。遠く離れていても、なぜか親しみを感じるのはそのせいかもしれませんね。



出発前に関西国際空港で全員集合

NZは新鮮なシーフードがいっぱい。ランチタイムににぎやかなテーブルを囲んで乾杯!



美しいレンガが印象的なワイタケレ市役所に後に

かわいらしい花束で歓迎されました
左からワイタケレ市助役ドロシー・ウィルソンさん
市議会議員イヴォンヌ・コーブランドさん、市職員のシャロン・シミオナさん
右の方でメダルをつけているのはボブ・ハーヴェイ市長



姉妹都市からこんにちは

～ マリンガ市（ブラジル）の岡田聡子さんからのメッセージ ～

加古川市とマリンガ市が姉妹都市提携を結んだのは1973年。その後20年にわたり交流が続いていますが、市民の皆さんでマリンガ市がどんな町なのか知っている方は多くはないのではないのでしょうか。

そこで、1994年5月より加古川マリンガ外国語センターの日本語教師としてマリンガで暮らしている岡田聡子さんにマリンガのことを紹介していただきました。

皆さんこんにちは、岡田聡子です。私は海外青年派遣団第1期生としてこのマリンガの地を訪れ、縁があって再び戻ってくることになり、両市の交流のため日本語教師として日々頑張っています。より多くの加古川市民の皆さんにも姉妹都市マリンガを知っていただくため、簡単に報告したいと思います。

マリンガ市は人口約30万人のパラナ州で3番目に大きな町です。この町は、ブラジルでも珍しく計画的に作られているため、坂のない平らな町です。

また、すべての道に木が植えられており、一年中どこかで花が見られるようになっています。

大教会の横にあるインガ公園では、ライオン、さる、エマや、ブラジルならではの動物がたくさん飼われ、公園を囲む大樹林はマリンガ市民の憩いの場所になっています。

50ほど建っているアパートはすべて20階ぐらいあり、セントロ（ダウンタウン）に行けば、3kmにわたる商店街や最新の音楽や映画を楽しめるディスコや映画館があります。

また1978年には、現天皇、皇后両陛下が訪問されたこともあり、現地日系人にとって誇り高い土地でもあります。

次は、私がお世話になっている日本人会をご紹介します。名称マリンガ文化体育協会、会員2000家族。150,000㎡の敷地内には、野球場3、テニスコート6、ゲートボールコート10、バレーボール、バスケットボールのコート、プール（50×25m）、土俵、2000㎡のホール、学生寮、そしてわが日本語学校があります。

約30部門あるなかの歌謡部とソフトボール部は、全国大会でも優秀な成績をおさめています。

わが日本語学校（名称加古川・マリンガ外国語センターマリンガ日本語学校）は、姉妹都市20周年を記念して加古川市の寄付により建てられたもの。生徒数80名、幼稚部、小・中学部、成人部にわかれています。幼稚・小・中学部は月～金、成人は月・水の夜だけ授業をしています。

私の担当は幼稚部。1時間教室で絵を描いたり、ビデオを見たり、本を読んだり、ゲームをしたり。そして30分のお弁当のあと、1時間外で遊ぶ計2時間半。



右のテーブルで子供たちに囲まれている岡田聡子さん

4才～6才の個性豊かなワンパクども14名。

何でも1番で正義感の強いゆきおくん（6才）、記憶力バツグンのゆういちくん（6才）、スーパーマンを夢見るまさしくん（6才）、将来はアフリカで動物と暮らしたいアリソンくん（5才）、甘えん坊のビビアンちゃん（6才）、とジェシカちゃん（4才）、将来日本に行きたいシモネちゃん（4才）、すぐちょっかいを出すりえちゃん（6才）、とあゆみちゃん（5才）、しっかり者のはるみちゃん（6才）、恥ずかしがり屋のあけみちゃん（6才）、お調子者のアレックスくん（4才）、スポーツウーマンのゆきこちゃん（4才）、先生の代理をしてくれるビビアーネちゃん（5才）。

したいことも十人十色。あっちでおにごっこ、そっちでおままごと、こっちではお花摘み。先生はおにごっこをしながら、おままごととお花摘みに参加。

けんかもしょっちゅう、でもみんなにくめない笑顔の持ち主。

こんな生徒に囲まれて、ハラハラドキドキの毎日、助手のテレザ先生と今日も走り回る……。

ギャア～まさしくん！ あゆみちゃん～なにしたの、あ！あ！あ！ゆきおくん～！！

え！生徒に加古川の何を教えてるかって？ ご心配なく、学習発表会の必修にしました「新加古川音頭」、みんな完璧ですよ。

マリンガの日系人なら誰でも知っている「加古川」、加古川の皆さんにも姉妹都市マリンガのこと少しでもおわかりいただけたいでしょうか。

I LOVE KAKOGAWA ①

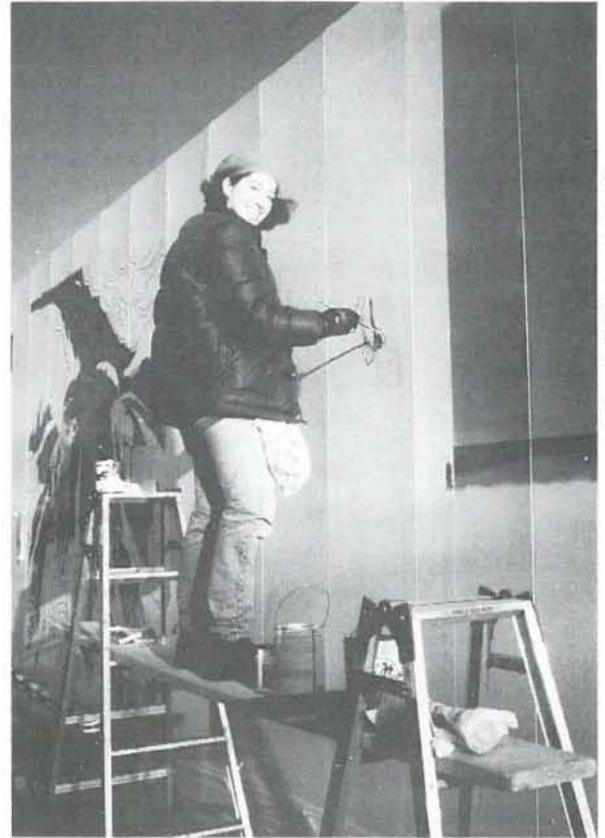
～ 在住外国人紹介のページ ～

私たちの住む加古川市にも、たくさんの外国人の方々が住んでいます。近くに住んでいても、なかなか接することの少ない人が多いのではないのでしょうか。このページでは地域に住む外国人をお迎えして、加古川での暮らしのことなどについていろいろお話をうかがいます。

今回のお客様

クレア・シミオナさん
(Miss Claire Simiona)
ニュージーランド・ワイタケレ市出身

- Q: まず、簡単に自己紹介をお願いします。
- A: はじめまして。私はクレア・シミオナといいます。加古川市の姉妹都市であるワイタケレ市から去年8月に日本に来ました。今は、加古川市のAET（英語指導助手）として、市内の中学校で英語を教えています。
- Q: NZでも教師の仕事をしていたのですか。
- A: いいえ、教えるのはこれが初めてです。日本に来る前は、ワイタケレ市役所の壁画を手掛けるなど、創作活動に携わっていました。
- Q: 日本の中学校はどうですか。NZの学校と違うところはありますか。
- A: そうですね。一般に、日本では生徒が学校で過ごす時間が長いと思います。土曜日も授業がありますし、放課後もほとんどの生徒が部活などで学校に残っています。NZの子供は学校が終わると家に帰ってTVを見たりスポーツをしたりしてすごしています。それからいろんな規則が多いこと。生徒たちもそれをよく守っていますね。
- Q: 生徒に教えるのは楽しいですか。
- A: ええ、とても楽しいです。主に1年生と2年生を教えているのですが、みんな明るくて元気がいいですね。最初は少しはさかしうにしていたのですが、慣れてくるとだんだん元気になってきました。
- Q: 生徒からはどんな先生とされていますか。
- A: う～ん、多分元気のいいエネルギーな先生だと思われているんじゃないでしょうか。
- Q: きっとそうでしょうね。ところで、日本で暮らして、困ることはどんなことですか。
- A: 周りの人々がとても親切にしてくださるので困ることはほとんどありません。ただ、言葉の問題だけです。
- Q: 何かおもしろい失敗談はありますか。
- A: ここでは言えませんね。
- Q: 休日はどんなことをしていますか。
- A: 友達と出かけたり、飲みに行ったり、家事をしたり…。絵を描くことが好きなので部屋で絵をかいたりしています。今は、市役所の新庁舎の工事防護壁に壁画を描いています。
- Q: 市役所で実施している夢壁画事業ですね。どんな絵を描いているんですか。
- A: タイトルは「ワイタケレ市」。ワイタケレにある森林や野鳥などを描いています。ワイタケレの美しい



制作中の壁画の前で

- 自然を伝えられたらいいなと思っています。
- Q: 完成はいつごろですか。
- A: 実はもう締切を過ぎているので、あせっているんです。そのことを考えると、時々夜中に目が覚めてしまうんですよ。
- Q: 大変ですね。
- A: ええ、でも楽しいですよ。他の人が描いている絵を見るのも参考になりますしね。
- Q: 絵が本当に好きなんですね。
- A: 大好きです。「シビレマス！」(日本語で)
- Q: あははは！ところで、今後のプランは？
- A: 特に決めていません。本に例えると、ページは真っ白です。何かおもしろいことがあったら、すぐ始められるようにね。
- Q: NZのことをひとことPRしてください。
- A: NZは、自然がとても美しい国です。私は日本に来てホームシックにかかることはありませんが、その美しい自然が時々恋しくなるんです。それに人々の暮らしはゆったりとしています。日本人はとても自然を愛する民族なので、きっとNZが好きになると思いますよ。ぜひ来てください。
- Q: 最後に加古川の皆さんに何かメッセージを。
- A: いつも親切にしてくださる加古川の皆さんに本当に感謝しています。これからもどうぞよろしく。
- Q: 今日はどうもありがとうございました。

INFORMATION

レシピをお譲りします

ふれあい国際料理講座のレシピをまとめたものをお譲りします。ご希望の方は、住所、氏名、電話番号を明記して、270円切手を同封して協会までお申込みください。数に限りがありますのでお早めに。

ふれあいティータイム

- ◆とき 平成7年3月17日(金) 13:30 ~ 15:30
- ◆ところ 加古川市立青少年婦人センター
- ◆ゲスト 瀧本ケリーさん(オーストラリア出身)
- ◆内容 ゲストを囲んで、お国の話や日本での暮らしなどいろんな話をうかがいます。
- ◆定員 15人(賛助会員に限る)
- ◆申込み 往復はがきに①名前②住所③性別④年齢を明記の上、3月3日までに申込みください。
(申込み多数の場合抽選)

賛助会員募集

協会では、市民の皆さんによる国際交流活動を進めるため、賛助会制度を設けています。国際交流に賛同くださる方、どうぞご入会ください。

また、平成6年度の会費の納入がお済みでない方は、お早めに納入くださいますようお願いいたします。

- 会費 個人会費 1口 2,000円
団体会費 1口 5,000円
法人会費 1口 10,000円
- 申し込み 協会事務局、市内各公民館、市役所案内などに申込書が置いてあります。詳しくは、協会までお問い合わせください。

眠っていませんか?

使用済みテレホンカード

協会では使用済みのテレホンカード、オレンジカード、ハイウェイカードを募集しています。

集まったカードは、日本国際ボランティアセンター(JVC)を通して、換金されたあと、カンボジアの復興に役立てられます。協会までご持参または郵送してください。皆さんのご協力をお待ちしています。

外国コイン募金のお願い

協会では、日本ユニセフ協会が行っている外国コイン募金に協力しています。ご家庭で眠っている外国コインがありましたら発展途上国の子供たちの命と健康を守る援助活動にご協力ください。

協会までご持参または郵送してください。

ご協力ありがとうございました

<使用済みテレホンカード>

- ・尾上小学校厚生部の皆さん
- ・今井 実様
- ・水丘南小学校5年4組の皆さん
- ・赤松 悦子様
- ・川西 紀子様

<外国コイン募金>

- ・杉村電気株式会社
- ・横谷 奉子様
- ・寺家町商店街振興組合
- ・廣岡 稔子様

ボランティア募集

協会では、ひきつづきボランティアを募集しています。従来のホームステイ、語学、日本語指導に加えて広報作りを手伝ってくださるボランティアも大歓迎。

くわしくは協会までお問い合わせください。

阪神大震災により被災されました皆様方に、協会職員一同心からお見舞い申し上げます。

姉妹都市のマリンガ市やワイタケレ市から協会あてにお見舞いの手紙が届いたほか、桂林市からは義援金50万円が贈られ、日赤加古川市地区を通じて被災地に届けられました。

厳しい寒さは続きますが、春はもうすぐそこです。

一日も早い復興のために私たちができることは何か、あらためて考え、助け合っていきたいものですね。

1995年2月発行

(財) 加古川市国際交流協会

〒675

加古川市加古川町北在家112-1

TEL 0794-25-1166